議案第１号

平成２８年度　法人本部　事業報告

Ⅰ　平成２８年度の状況

１０月２１日の鳥取県中部地震により、建物・設備等に大きな被害を被った。

改正社会福祉法の施行により理事・評議員等の仕組みが大きく変化した。社会福祉法人に求められる事業について検討し、引き続き安定的で健全な法人経営が出来るよう努めていく。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．地域に信頼される法人として新たな制度に対応できるサービスを提供する

・介護報酬の改正についての説明会に参加した。部署毎で改正にあわせて変更を行った。

２．能力向上と次世代の職員育成を行う

・キャリアに応じた施設内・外研修に参加した。

３．法令を遵守し、健全で安定的な事業経営を行う

・改正社会福祉法の施行にあわせて、定款をはじめとする各種規則・規程の見直しを行い、法人ルールの再確認も行った。（定款、給与規程、経理規程、運営規程等）

４．地域貢献の推進と地域包括ケアシステムへの対応を行う

・地域貢献委員会及び各部門が関係機関と連携を図った。定期的に（医）清生会・（福）福生会連携協議会を開催。また、三朝町介護支援ボランティアを受入れた。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．第三期３カ年計画（平成 27 年度～平成 29 年度）について全職員が認識を共有し取り組む

・主任・リーダー会を中心に各委員会や各部署で第三期３カ年計画に沿って取り組んだ。

２．法人理念と苑是に基づいたサービスの向上（接遇の向上と徹底）

・サービス向上委員会を中心に、あいさつ向上の取組み（研修会での挨拶の実施、標語を提示、パトロールチェックを毎月実施、職員自己評価）を実施した。また、利用者・家族・取引業者を対象に接遇アンケートを実施し、４段階評価（悪い・やや悪い・良い・大変良い）で、各項目「大変良い」の評価 80%以上を目標として取り組んだ。

平成 28 年度アンケート結果　（　）…平成 27 年度

「大変良い」の評価

① 笑顔であいさつをしているか 50%（47%）　② 先にあいさつをしているか 34%（42%）

③ 言葉遣い 47%（40%）　④ 身だしなみ 47%（32%）

・12 月全体会研修「接遇向上」を実施した。68 名参加（参加できていない職員には各部署で伝達研修を実施した）

３．健全経営の推進

・業務分担については、予算検討会及び運営会議の中で協議を行ったり、実態に合わせて見直しを行った。

・法人情報の公開は全国経営協の会員法人情報ホームページや当法人ホームページ上で行い情報更新した。

４．地域ニーズに基づく新規事業について検討する

・空きスペースとなっている場所（サテライトデイサービス）の有効活用について検討した。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．個々の資質向上と次世代の職員育成

・各種研修会を毎月実施した。（全体会：平均 70 名参加（前年度 63 名）／職員研修：平均 26 名参加（前年度 19 名）／施設外研修延べ 208 名参加（前年度 258 名））

・エルダー制度の１か月評価は全職員が約１か月で修了し、各専門の評価について評価中。また、中途採用者職員についてはそれぞれ評価途中である。

２．専門性の向上による資格取得の推進

・平成２８年度資格取得（合格者）・修了者状況
介護福祉士４名、認知症介護実践者研修５名、認知症介護実践リーダー研修１名、社会福祉主事１名、認定特定行為業務従事者研修５名、認知症対応型サービス事業管理者２名

３．経営管理における業務改善・見直し

・法人本部をはじめ、ケアハウス（書面）・賀茂保育園（書面）で鳥取県の指導監査を受けた。指摘事項については改善し報告書を提出した。

Ⅴ　地域目標の評価

１．地域貢献の推進

・11 月 11 日「介護の日」に啓発活動を行った。（ポスター掲示等）
・介護予防教室を５回開催した。（前年度５回）
・施設見学の受入 131 名（内訳：学校３、その他）
・第６回論語三代を１１月２３日に開催。鳥取県中部地震発生から１か月後の時期にもかかわらず 180 名の参加があった。（前年度 250 名）

２．情報開示

・ホームページ「福生会ニュース」の更新を随時行った。（月平均１７件）
・ホームページリニューアルについて内容を検討した。平成 29 年度リニューアル予定。
・機関紙「太陽」のカラー印刷の検討と配布先の見直しを行った。平成 29 年度よりカラー印刷で発行。
配布先については、中部地区内の居宅介護支援事業所への送付を追加していく。

３．地域包括ケアシステムの推進

・三喜苑夏まつりを開催した。200 名参加。（雨天のため屋内での実施）
・保育園との交流会を実施した。（年間８回：賀茂保育園５回、みささこども園３回）

４．防災意識の向上

・10 月 21 日の鳥取県中部地震で被災された方の受け入れを実施。三朝町との防災協定（平成 24 年 11 月 8 日締結）により地域住民１名の避難場所となった（三喜苑）
・訓練回数　避難訓練（火災２回・地震１回・風水害１回）
夜間想定通報訓練２回（内、１回は抜き打ち）

Ⅵ　業務目標の評価

１．人材獲得と人材育成・定着

・専門職の採用…看護師２名、作業療法士１名　介護福祉士２名
・新規採用時職員研修を 11 回（対象 20 名）実施　（前年度：7 回 13 名）
・感動作文・笑顔フォトコンテストに 60 点応募があった。（前年度 68 点）

２．法人全体の利益率　目標 3%

・法人全体の利益率は 7.64%で適正であった。（前年度 9.32%）

３．効果的・計画的な経営管理と資金活用

・各種補助金等を活用した。①鳥取県補助金　結核健診（特養利用者 56 名受診）に係る費用の一部を補助
②鳥取県助成金　臨時職員から正規職員への転換を実現し受給した（一定の条件有り：２名）

４．リスクマネジメントの充実

・職員の労働災害は２件発生した。
・不審者対策マニュアルを策定した。三喜苑、仁の里、三喜苑西郷に防犯システムを導入した。

５．職員の処遇改善

・ストレスチェック制度を導入、実施した。
・一般事業主行動計画（次世代育成支援対策推進法に基づき策定）について、衛生委員会を中心に職員への周知を図った。特に新規採用者には新規採用時職員研修で説明し周知した。
・職員の定期健康診断を実施した。（125 名受診。12 月に結果報告した）
・介護職員処遇改善加算及び保育所職員処遇改善等加算を活用（申請）し、賃金等の処遇改善を実施した。

議案第３号

平成２８年度　ケアハウス　事業報告

Ⅰ　平成２８年度の状況

入居者状況は、加齢に伴い心身機能の低下や認知症状の出現が見られるようになっている。そのため体調不良の早期発見や心身機能の活性化に努め一人ひとりの機能維持につながっている。また、選ばれる施設になるよう他事業所に向けパンフレットや入居者募集の声掛け等行いスムースな入居につなげることができた。今後も各事業所と連携を図りスムーズな入居につながるようさらなる職員力の向上が求められる。

（現況　自立:７名、要支援１:１名、要支援２:１名、要介護１:１名、要介護２:５名）

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．職員の資質向上

・お互いの接遇について評価しあい接遇力の向上に努めた。また、認知症状の予防方法を学習し資質向上に努めた。

２．入居者、家族に信頼される施設サービスを目指す

・入居者の日常の体調管理に配慮し、各関係機関や家族と連携しながら健康管理に努めた。また、日常生活内リハビリやレクリエーションを継続実施し、心身機能の維持を図り生活の安定に努めた。

３．安定的事業運営を図る

・空室ができないよう待機者へ連絡し、現状と入居意向の確認を行ったが、すぐの入居は望まれない方が多く、継続的に他事業所と連携しながら次の入居者の確保をした。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．サービスの質の向上

・レクリエーションでは、今までのプログラムに追加して、認知症予防を目的としたもの（シナプソロジー）も取り入れた。
（状況：参加者 7 人/日平均（47%の参加率））

・ミニ講座の開催（年４回：防災、栄養、リハビリ、認知症予防）
運営懇談会時の 20 分程度の短い時間だが熱心に聴かれていた。
（状況：参加率 100%／毎回全員参加）

・入居者同士の会話の中から「〇〇が食べたい」「〇〇に行きたい」等の要望もあり、グルメツアー（うどん）を実施。個別の希望にもお応えし、ラーメンを食べに行かれた方もあった。外食（外出）することで、日常生活の活気にもつながった。

２．ケアハウス生活の継続

・ケアハウスで長く生活していただくために、困りごとや食事に関することに対応した。そして、環境整備等を行うことで入居者の生活の継続につながった。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．職員の資質向上

・中国地区老人福祉施設研修大会に発表者として連続出場。（開催地：岡山市）
発表テーマ「認知症予防の取り組み～ケアハウスで生活し続けるために」

・認知症についての職員勉強会を実施、認知症予防に効果的なシナプソロジーについて学び実施した。虐待防止についてマニュアルを読んでわからないところは聞きあった。

・接遇面では委員会のあいさつチェック表で声をかけながら意識向上に努め、また毎朝あいさつ標語を復唱し意識を高めた。
（入居者アンケート：「職員のあいさつ」⇒良い 83％の評価（前年度 75％））

Ⅴ　地域目標の評価

１．地域の学校や住民関係機関等との連携や交流を図る

・徳本子ども会とちまき作りやソーメン流しで交流した。その後も子ども達との交流が続いており休みの時には遊びに来ている。
（参加者：入居者／延べ 24 名、子ども会／延べ 17 名）

・運動会見学や保育園交流会に参加し、子ども達とふれあいを楽しまれた。
（参加状況：6 回参加／延べ 51 名参加）

Ⅵ　業務目標の評価

１．待機者を確保し、満床を維持する

・定期的に待機者に連絡を取り、待機者の状況把握に努めた。

・先のことを考え早めに申し込みをされている方が多く、すぐの入居を望まれていない待機者が多いのが現状である。（待機者 7 名）

・ホームページに空き状況を掲載したり、ケアハウスのチラシを作り地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、医療機関の地域連携室等にも配布し宣伝に努めた。

２．パンフレットやホームページの更新

・パンフレットは新しいものを作成し現在使用している。ホームページの福生会ニュースに行事の写真を掲載している。

３．源泉である「職員」の定着

・何でも言いあえるようコミュニケーションをとることで定着につながっている。

各月初日の入居者状況（定員：15 人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
人数（人）	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

議案第１１号

平成２８年度　訪問看護ステーション　事業報告

Ⅰ　平成２８年度の状況

　地域や利用者等のニーズ、地域医療の現状、職員体制、経営の効率化と安定的経営等について検討を重ねた結果、平成２８年３月３１日をもって「事業休止」することを決定した。

「事業休止」後、在宅療養者の生活を支援するため、２４時間対応体制の提供に向けた取り組みや体制整備をするため２４時間体制に必要な人員の確保（看護師配置）を検討したが、体制整備には至らなかった。

　このことから、平成２８年１２月４日の理事会で承認を受け、平成２９年１月３１日をもって「事業廃止」することを決定した。

（経過説明）

① 第７７回理事会（平成２７年１１月１５日開催）協議

平成２７年度訪問看護ステーション事業会計補正予算が議案提出された。収支状況は年々悪化するばかりで、24 時間対応体制加算（医療）及び緊急時訪問看護加算（看護）がとれなければ平成２７年度をもって「事業撤廃」「事業休止」という意見が出されたことが議事録に記載されている。

② 第７８回理事会（平成２８年３月２０日開催）決議

訪問看護ステーションみささ事業休止について議案提出された。協議の結果、平成２８年３月３１日をもって「事業休止」することが議決された。

第７７回理事会以降、施設長をはじめとする担当者と「存続、休止、廃止」について協議を重ねてきたが収入減少の大きな原因である 24 時間対応体制加算（医療）及び緊急時訪問看護加算（看護）をとることができず、事務局判断としては「休止」を決断した。尚、事業再開の可能性はあり、引き続き検討するため「廃止」とはしなかった。

③ 第８０回理事会（平成２８年１２月４日開催）決議

訪問看護ステーションみささ事業廃止について議案提案された。協議の結果、平成２９年１月３１日をもって「事業廃止」することが議決された。

事業休止の理由となった①看護師不足及び②24 時間対応体制加算（医療）及び緊急時訪問看護加算（介護）の解消について検討してきた。しかし、課題の解消が出来ない状態が続いている。又、休止できる期間は１年間であることから、廃止とした。

議案第２号

平成２８年度 指定介護老人福祉施設 事業報告

Ⅰ　平成２８年度の状況

IVH、点滴をされる方が増えている。また食事介助の必要な方や食べられるときに注意が必要な方が増えてきている。食事介助の技術や食事時の姿勢、食べやすい食事の提供が求められている。入院される方も多く、体調変化の早期発見、早期対応が重要となってきた。職員も専門的な知識を持って対応すること、各職種が連携し協働していくことがより重要となってきた。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．尊厳を守り、楽しみのある生活を提供する

・レクリエーション、外出行事を行った。

２．安全かつ安心で快適な生活を提供する

・事故はあったが、多職種が話し合い対策を行った。

３．各職種の連携と協働を強化し、チームワークのよい職場づくりを目指す

・なんでも言い合える職場環境をつくるよう、元気で明るい挨拶に努めた。多職種が協力し合って業務にあたった。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．安全な生活を提供する

・安全かつ見た目のよい食事を提供するために、刻み食の改善に取り組みソフト食材を導入したり、柔らかい和え物は刻まないで提供した。

２．余暇活動の充実を図る

・機能訓練指導員が主体となり歌や風船バレー、手芸を定期的に実施した。

・季節毎の行事や故郷訪問、外食や買い物等を行った。（外出された方は４３％）

・毎月２回調理と介護の職員が協力し合って調理活動を実施した。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．人材育成と強化を図る　（　）‥現取得者総数

・認知症介護実践者研修４名修了　（９名）

・認定特定行為業務従事者認定者３名修了（１３名）

・介護福祉士２名取得（２３名）

・実践的な移乗介助やかかわり方、医療的なことの勉強会を行った。

Ⅴ　地域目標の評価

１．地域との交流を図る

・保育園、小学生との交流会、運動会や音楽会への参加

２．家族との信頼関係を築く

・誕生会１３家族参加。家族会行事にも多数家族に参加していただいた。

・故郷訪問１１名実施

・年間面会者数４，５５７名　（１日平均１３名来苑）

Ⅵ　業務目標の評価

１．施設内の環境整備を図る

・季節の変化に先駆けて、衣替えや繕い物の声をかけて実施した。環境整備も振り分けて実施した。

２．安定的経営を目指す

・入院者数は平均５．５人/日であった。（平成２７年度平均入院者数５．６人／日）

・次の入所予定の方には事前に様子を伺いに行くようにした。

＜平成２８年度入所者状況＞　　【参考：平成２７年度】

平均要介護度：　４．１　　【４．１】

平均入院者数：　５．５人／日　　【５．６人／日】

退 所 者 数：　１８名（看取り８名）　　【２０名（看取り３名）】

待 機 者 数：　１００名　　【１１７名】

議案第４号

平成２８年度　指定通所介護事業　事業報告

Ⅰ　平成 28 年度の状況

長期利用されていた方の介護度が上がり、自宅での生活が困難となられ施設入所や長期のショートステイを利用されることになりデイ利用を中止される方が多かった。三朝、倉吉の地域包括、居宅事業所、病院等に訪問し新規獲得に努めた。新規利用者はあるが要介護度の低い方の利用が多く収入減に繋がってしまった。

個別レクリエーションで物作りや脳トレ、身体全体を使った運動に取り組み、機能訓練ではご本人の意向を確認しながら訓練や指導を行ない状態維持や改善に繋がった。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．在宅生活継続支援を家族とともに行う

・在宅生活で困っていること等、身体面、精神面からの支援を家族と協力しながら行なった。

２．利用者主体のケアの徹底

・利用者の思いを聴き、寄り添うケアに努めた。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．個別ケアの充実を図る

・作業療法士用アンケートに基づき、個人の好みや興味のあることを知ることができ、それを参考に、個別レクの提供を検討、実施した。個人に合わせたレクリエーションを提供した。

・毎月、誕生月の利用者に、アルバムと連絡ノートを入れる袋をプレゼントし、皆さん喜んでくださった。利用者用の連絡ノートで家族からのコメントへの返事をしたり、日中の利用者の様子をお知らせしたりして、家族との連携に努めた。

・認知症自立度Ⅲa 以上の加算対象の方を対象に、認知症の程度を簡単なスケールを使用しチェックし、個別の対応方法、注意点等を職員に周知した。また認知症の方への対応の仕方については、普段の対応方法を見て個別指導も行った。

・月平均１２件の担当者会議に参加。必要時には各機関と連絡を取り合い、体調不良等、早期対応することができた。各事業所に月評価を必ず手渡しし、コミュニケーションを図るように努めた。

２．機能訓練の充実を図る

・月平均６．５名の方の評価を実施。利用者、家族に希望を聞きながら個々に適した個別の訓練を提供した。（要介護・支援訓練実施者 49 名　維持者 41 名　改善者４名）

・月平均５．８名の方の指導を実施。自宅でできる運動の仕方を、分かりやすく図にして指導した。

３．利用者、家族との連携を図る

・家族の会を２回開催し１２名の参加があった。デイでの様子を聞くことができたり、普段なかなか話せないことを聞いてもらえて良かったとの声があった。

・個別に意見を聞き取りすることで色々な思いを聴き取りすることができた。意見を参考にし、出来る所から改善するように努めている。（年２回）

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．職員研修会の実施

・通所ミーティングの際にミニ研修会を実施。短時間ではあったが、それぞれ身になる研修ができた。感染症についての研修は、レクの時間を使って利用者と一緒に学ぶことができた。（年６回実施）

２．情報交換会の定期的実施

・他職種との情報交換を行なうことができ、業務に活かすことができた。日頃から何かあれば報告・連絡・相談するように努めた。（年１回実施）

３．外部レクリエーション研修参加

・デイ職員がほぼ全員参加することができた。実際に研修で学んだことを、デイ利用者向けにアレンジする等して活用することができた。（年９回）

４．資格取得　（　）‥現取得者総数

・認知症介護実践者研修１名修了（４名）、アセッサー1名修了（1名）。

Ⅴ　地域目標の評価

１．町内に出向き出前レクリエーション・介護教室等を行う

・出前レク、介護教室に講師として参加。（5/19）余戸８名、（7/6）片柴９名、（12/15）坂本７名、（6/5）みささ村15名、（8/22）西小鹿１７名の参加者あり。
要請があれば断らずに参加した。

２．地域交流会への参加（地域交流会・三朝をなんとかしよう会）

・三朝をなんとかしよう会：（5/19）２名、（11/21）１名。９月挨拶運動　５名。２月、３月に雪かきボランティア　１名参加。

Ⅵ　業務目標の評価

１．収入月額７５０万円以上を目標とする

・月平均６３０万円の収入。介護度の高い方が施設入所やロングショート利用されたり、死亡などにより収入が下がった。新規利用者も獲得しているが、介護度の低い方や自立の方が多く、なかなか収入増に繋がらないが、利用者獲得に努めている。

２．業務の見直しを行う

・職員に見直しが必要な事はないか聞き取りを行い、職員体制表、入浴時の薬表、利用者用連絡ノートの見直し、変更を行った。

・毎月、清掃箇所を決め、計画的に実施することができた。また予定していなかった場所でも、整理が必要な箇所については、都度職員へ呼びかけて清掃することができた。

・毎日夕方のミーティングで、その日の振り返りを行なっている。重要な事項については連絡ノートにも記載し、周知するようにした。

３．自動車の接触事故をなくす

・新規利用者の自宅周辺の地図をコピーし、どのルートで行き、どこに駐車するのか周知徹底した。

・利用者の特記事項等は夕方のミーティングで報告、確認し、運転手（総務課）にも連絡している。

４．経費削減の実施

・毎月消耗品の在庫をチェックし、消耗が多い物品については職員に都度周知し、経費削減に努めた。

議案第５号

平成２８年度 指定短期入所生活介護事業 事業報告

Ⅰ　平成２８年度の状況

平成２８年１０月の鳥取県中部地震で被災された方を約３０名の受け入れをした。自宅が被災した職員も利用者の対応をしたことは評価される。

平成２８年１２月から看護職員の退職により、その関係の介護報酬加算を算定できなかったので、その分の収入（約４０万円）が入らなかった。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．緊急時と重度者の受け入れ体制の強化を図る

・緊急時と重度者の受け入れを図った。

２．ショート計画と機能訓練の充実を図る

・ショート計画と機能訓練の充実を図った。

３．基本報酬にかかる対応の見直しと長期利用者の基本報酬適正化にかかる対応を見直す

・基本報酬の見直しと長期利用者の基本報酬適正化に対する対応を実施した。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．緊急時と重度者の受け入れ体制の強化を図る

・緊急利用時の受け入れ加算　年間対象１７名、加算対象外９９名

・医療的な重度者の受け入れを実施した。加算対象者２４名（４～１１月）

２．家族及び居宅ケアマネジャーとの連携の強化を図る

・ショート計画の作成を年間９３件した。

・機能訓練計画の作成及び利用者の自宅を訪問し、説明と評価を実施。実施者年間１１名。

Ⅴ　地域目標の評価

１．関係機関と連携を密にする

・サービス担当者会議出席　年間９２回

Ⅳ　業務目標の評価

１．基本報酬の見直しと長期利用者の基本報酬適正化に対する対応

・稼働率目標：平均１７．０名／日　→　実績１７．１名／日

	平成 27 年度	平成 28 年度	差
要支援１	14	15	1
要支援２	117	84	△33
要介護１	334	330	△4
要介護２	670	948	278
要介護３	1,603	2,063	460
要介護４	2,764	1,674	△1,090
要介護５	587	1,133	546
合　計	6,089	6,247	158
平均介護度	3.4	3.3	△0.1
１日平均人数	16.6	17.1	0.5
１人１日収入	11,008	10,759	△249

議案第９号

平成２８年度　指定通所介護事業所（三喜苑西郷）　事業報告

Ⅰ　平成２８年度の状況

倉吉市の利用者を中心に三朝町、北栄町、湯梨浜町と色々な地域からの利用があった。

地域包括センターや各居宅事業所、病院等と連携を図りながら利用者の獲得に努め、重度の方の受け入れも行なうことで事業所からの紹介も増えてきているが、冬季になり長期入院やロングショートを利用される方が増えたこともあり収入が目標に届かなかった。

レクリエーションで物作りや脳トレ、身体全体を使った運動の取り組みを行ない参加し楽しんで頂くことができた。機能訓練ではご本人の意向を確認しながら訓練や指導を行ない状態維持や改善に繋がった。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．自立支援及び在宅生活継続の支援を行なう

・利用者の心身の状況を把握し、必要なサービスを利用者の希望に添うように各関係者と連携を図り適切に提供した。

２．利用者一人ひとりを尊重し、より質の高いサービスを目指す

・利用者一人ひとりを尊重し、ご本人の思いに沿ったサービスを提供した。

３．チームワークを大切にし、お互い助け合い、思いやりを持って行動する

・朝、夕のミーティングにて業務について困っていること等相談し、お互いが相手を思いやりチームワークを大切にすることに心がけた。

４．小規模型から一般型への転換を図り（定員 15 名から 20 名）より充実した事業運営を実施していく

・居宅介護支援事業所等を訪問し紙面で空き情報や活動内容を伝えたり、担当者会議には必ず出席し利用者の獲得に努めたが定員 20 名を定着することが出来なかった。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．利用者に応じた日常生活動作訓練により、機能向上を目指す

・自宅でできる体操をイラストにし連絡帳へ貼付し、毎月メニューの更新を行なった。来苑時の聞き取り、午後の活動時への導入も行ない、日常的に運動の習慣を身につけていただけるよう努めた。

・連絡ノートに利用者のその日の様子や連絡事項等を記入、必要に応じて送迎時に家族へ口頭で説明した。また、担当介護支援専門員にも適時電話連絡などで利用者の状況を報告し情報共有と連携を深めている。

２．能力に応じた自立した活動の取り組みを行なう

・活動内容を増やし、各利用者の好みに合わせた活動の提供に努めた。今後も「してみたい事」を聞き取り、多種多様な活動を提供し、自主的に選択しながら活動できるよう取り組んでいく。

３．本年度中に土曜日営業を目指し利用者の求めるニーズに応えるとともに、更なる利用者の獲得を図っていく

・居宅介護支援事業所へ定期的に訪問し営業活動を行なったが、定員数に至らず土曜日営業を開始することは出来なかった。1年間の介護保険利用状況は延べ2,521名であり、前年度（1,357名）の利用者延べ人数より1,164名増となっている。介護保険外利用者延べ589名であった。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．職員の資質向上と人材育成

・部署研修年6回（接遇、認知症ケア2、リスクマネジメント、感染症対策2）開催、施設内研修へもお互いに声を掛け合い参加した。また、必要と感じた事については夕方のミーティングで確認し合い、利用者のケアの方法を考える機会が多くなった。

２．資格取得の推進　（　）・・現取得者総数

・認知症介護実践リーダー研修1名修了（1名）。研修修了後に伝達講習を行ない、認知症ケアへの理解を深めた。

Ⅴ　地域目標の評価

１．地域の方とのつながりを大切にする

・地区の奉仕作業（春、秋）に参加し、近隣住民との交流を図った。顔なじみの住民が少しずつ増えている。引き続き、地域との交流の機会を大切にして関係を深めていく。

・ボランティア延べ92名、学生3名の受け入れを行なった。利用者の趣味の継続、仲間と一緒に好きな事を楽しむことに繋がっている。

・西郷地区の祭り「サラバンダ」に作品出展する予定であったが、地震により中止となった。

Ⅵ　業務目標の評価

１．新規利用者の獲得に努め、収入月額180万円以上を目標とする

・毎月各事業所を訪問し、西郷新聞（3回発行）にて日々の活動の様子を伝える等、新規利用者獲得へ取り組んだが目標達成できなかった。（月平均162万円）
新聞発行回数も少なく施設の特徴を知ってもらうことが十分にできなかった。

・担当者会議には必ず出席し、利用者状況報告を行った。また、利用者の状況変化や相談について適時報告、連絡し連携を図った。

２．職員同士がより良い関係をつくる

・朝と夕方のミーティングで報告や相談を行ない、困りごとなどの解消を図ることができた。また、休憩時間や業務外での交流の機会を作り良い関係づくりに努めた。

３．経費削減に努める

・室温計の確認、在庫管理を行ない消耗品の動きを把握し節約に努めた。

・業務がスムーズに行えるよう、毎日業務分担表を作成し、朝のミーティングにて確認を行なった。休憩時間や細かな業務分担の見直しを図った。

議案第１０号

平成２８年度　指定居宅介護支援事業 事業報告

Ⅰ　平成 28 年の状況

平成 27 年の介護保険法改正で、「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」を目指す改正がなされ、実現のための仕組み作りが始まっている。また、各保険者が予防給付の訪問介護と通所介護を地域支援事業に移行する総合事業への移行が開始あるいは準備段階に入った。選ばれる事業所かつ介護支援専門員となるために事業所・介護支援専門員として資質の向上を目指し、介護と医療との連携ができる事業所となる取り組みを実施した。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．利用者の自立を支援できるケアマネジメントを行えるようにする

・様々な工夫により利用者の自立を支援できるケアマネジメント（介護計画作成）を行えた。

２．在宅の高齢者を地域で支えられるように、地域住民の方々・関係機関等との連携を深める

・在宅の高齢者を地域で支えられるように、地域機関との連携を深める取り組みを進めた。

３．利用者の確保を図りつつ、業務の効率化を進める

・利用者の確保を図りつつ、業務の効率化を進めた。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．利用者の自立を支援できるケアマネジメントを行えるようになる

・国際生活機能分類（ＩＣＦ）の視点を持ってアセスメント（課題分析）を行った。

・サービス担当者会議がスムーズに進められるよう見直しと工夫を行った。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．研修等に積極的に参加して得たことを、自分の業務やケアマネジメントに活かし評価する

・研修等に積極的に参加し、自分の業務に活かす努力をした。

・事業所内勉強会を実施した（10 回。うち事例検討会 3 回、対人援助勉強会 3 回実施）

・各自が研修等に参加した（介護支援専門員連絡協議会開催の意見交換会や研修会年 4 回、介護支援専門員更新研修（年間）1 名、主任介護支援専門員更新研修（年間）1 名、成年後見人養成研修（年間）1 名、地域包括連絡会 3 回、相談業務スキルアップ研修会 1 名）

Ⅴ　地域目標の評価

１．利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、関係機関・地域とのつながりをつくる

・利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、関係機関・地域との連携を図った。

・利用者の住む地区を担当されている民生委員への挨拶回りを行った。

・町内福祉事業所の集まり「三朝をなんとかしよう会」の取りまとめを実施し、参加した。

Ⅵ　業務目標の評価

１．利用者の確保

要介護：目標は７６件・実績月平均８１．０件（平成２７年度実績：７６．１件）

要支援：目標は３５件・実績月平均３９．０件（平成２７年度実績：３５．５件）

地域包括支援センターや医療機関等との連携を図り、新規利用者の獲得に努めた。

２．残業を減らす

・業務の改善を図ったが、利用者増もあり目に見える結果とはならなかった。

３．介護報酬改定と介護予防給付・日常生活支援総合事業移行への適正な対応の実施

・法改正や保険者によっては総合事業への移行があり、その都度確認し、対応した。

議案第７号

平成２８年度　賀茂保育園　事業報告

Ⅰ　平成２８年度の状況

平成２７年度から子育て関連３法(子ども・子育て支援法、認定こども園法一部改正法、子ども・子育て関係整備法)が施行され、新しい子ども・子育て支援制度が始まり２年が経過した。経営面では、今年度も保育士の処遇改善などを目的とした単価改正が実施されたこと、０歳児の入所を多く受け入れたことにより、昨年度より約５００万円の収入増となった。

１０月に起きた地震で、訓練では想定できなかった問題が多くあり、地震後すぐに保護者への緊急メールが配信できるようにし、園児の避難誘導について職員の動きなどの見直し・避難用備品の設置等を行った。乳児の避難については、一度に６～８人移動できる避難車（乳母車）を保育園で２台購入した。その他高額な防災用品については三朝町に要望し、防災頭巾（１００名分)・避難用テント２張りを購入していただいた。

また、近年０歳児の入所申込みが増えており、本園もその対応のために「一時保育室」を「０歳児室」に変更し環境を整えようとしたが、保育室の構造上の問題（調乳・おむつ替えコーナーなどの改修が必要。）があり、本格的な改修を三朝町に要望し、平成２９年度に増改築をしていただけることになった。

三朝町からの管理委託も９年が経過し、保護者・地域住民・関係機関の方々からは、好意的に理解と協力を得ることができ、円滑な園運営に大きく寄与していただいた。また、多種多様な交流にも協力していただき、園児の豊かな人間形成を図ることができた。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．国の法令・基準・指針，及び県や町の条例等に基づき，公平公正に保育を行うと共に，子どもの最善の幸福を願い，家庭・地域社会との一体化を図っていく

・国の法令・基準・指針及び県や町の条例等に基づき、公平公正に保育を行うと共に、子どもの最善の幸福を願い、家庭・地域社会との一体化を図ることができた。

２．園児が深い愛情と信頼の中で，創造性を育み，探究心を高め，伸びやかに楽しく主体的に成長することができるよう，人的・物的環境を整えていく

・園児が深い愛情と信頼の中で、創造性を育み、探究心を高め、伸びやかに楽しく主体的に成長することができるよう、人的・物的環境を整えることができた。

３．保育園を取り巻く様々な課題がある中，関係機関や家庭・地域社会との連携を十分に図り，豊かな人間性の育成に寄与する

・保育園を取り巻く様々な課題がある中、関係機関や家庭・地域社会との連携を十分に図り、豊かな人間性の育成に寄与できるよう努力した。

Ⅲ　サービス目標の評価

それぞれの事業での利用実績は次の通りである。

１．通常保育事業

総利用者数　1,119 人(昨年度は 1,110 人、一昨年度は 1,219 人)

月別初日在籍園児数（利用者数）　単位　人

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
89	91	91	90	92	94	95	95	95	96	96	95

２．特別保育事業

①　一時保育事業　総利用者数　65 人(昨年度は 43 人、一昨年度は 92 人)

月別利用者数　単位　人

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
4	4	4	12	3	3	0	8	3	4	5	15

② 障害児保育事業
障がい児２人在籍。２人とも同じクラスであったため、加配保育士１人を配置した。
８月に１人入園し３人になったが、補助金の追加は無し。

③ 延長保育事業(自主事業)　総利用者数　131 人(昨年度は 72 人、一昨年度は 38 人)
総稼働日数　89 日(昨年度は 57 日、一昨年度は 27 日)

月別利用者数　単位　人

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
6	9	5	10	3	1	4	12	17	12	20	32

Ⅳ 能力開発目標の評価
１．優しさとたくましさを併せ持つ子どもの育成と養護・教育の一体化を図る保育技術を高めるとともに、保護者の悩みや問題を受け止め、支援していく保育指導技術の向上を目指す
・園長研修会・保育士研修会・人権教育研究会などに積極的に参加、公開保育研究会・園内研修を実施し、園運営の向上及び保育技術や保育指導技術の習得に努めることができた。

Ⅴ 地域目標の評価
１．家庭や地域社会との連携を十分に図る
・保護者研修会を開催した
「子育て親育ち講座」で鳥取短大の前田教授の講演、“めだか論語教室”の指導者磯江氏の講演を行い、保護者の意識を高めることができた。
・町内他園との交流、三喜苑・老人クラブ訪問・大昭老人クラブを招いての交流や、小学生の町探検・中学生のトライワークの受入れなど、相互の連携も図れた。

Ⅵ 業務目標の評価
１．人的・物的環境を整え，安全で信頼に満ちた運営を目指す
・人的・物的環境を整え、安全と信頼に裏打ちされた運営が推進できた。
２．思いやりの心を持ち、支え合い・助け合う人づくり、職場づくりに徹する
・理念や基本方針に基づき職員教育の徹底を図り、保育の分担決めや話し合いの場を多く持つことで、協力し合う体制づくりに努力した。
３．保育課程を見直し、子どもの発達に即した適切な内容や特色ある内容を体系立て、年間計画として整備する
・本年度も保育課程の全体計画などを見直し、特色ある園づくりを基本にして、本園独自の保育課程、年令別の到達目標を作成した。
４．経営的に収支のバランスのとれた安定的な経営を目指す
・経営については、今年度も保育士の処遇改善などを目的とした単価改正が実施されたこと、乳児の入所を多く受け入れたことにより、収支のバランスのとれた安定的な経営ができた。

Ⅶ 施設の維持管理及び修繕等
補修・修理・購入を行った施設等
〈 福生会負担分 〉
① ギャラリー照明（ＬＥＤ）･･･約４０万円
② 乳幼児用避難車（乳母車）２台購入･･･約２２万円
〈 三朝町負担分 〉
① 保育室・ホール網戸張り替え、室内のドアの開閉が困難な建具の修繕
② 厨房ＩＨコンロ１台取り替え
③ 地震による被害の修繕
内壁クラック・ポンプ室ポンプ破損
④ 災害対応品の購入
防災頭巾（１００人分)、テント２張り
⑤ １歳児保育室　窓の雨漏り修繕
⑥ 玄関　通路の段差修繕

議案第６号

平成２８年度　グループホーム　事業報告

Ⅰ　平成２８年度の状況

認知症であっても馴染みの地で生活が続けられるように地域と協力しながら利用者を支え、グループホームの力を発揮した。一人ひとりの個に配慮したケアをし、認知症の進行を緩やかにできている。職員は認知症に関する学習等に力を入れ資質、能力向上に努めた。今後もさらなる学習を積み重ねながら、利用者が地域で生活を続けられるよう地域との交流を深めていきたい。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、ゆったりとした和やかな家庭的な生活を提供する。また、利用者の要望に添った環境を整え、その人が望む生活を支援する

・尊厳を大切にし、利用者のペースに合わせ、興味のあるもの、特技を活かした関りを継続。日々の生活の中で一緒に体操をし、調理の味付けや畑の野菜の収穫時期等教えていただきながら、ホームでの生活が職員も家族の一員としての関係性を保ちつつ、自立支援へも心掛けた関りをおこなった。

２．地域の人々との絆をさらに深め、地域行事に参加する等、利用者の満足度の高い生活を目指し、地域で暮らし続けられるよう支援する

・総事（山田区）、地域行事（とんどさん）への参加、広報誌配りや畑を介した野菜作り、地域の方とのスイーツ作りや地域交流会を通して職員のみでなく利用者も地区の方との交流が出来た。

地域交流会年４回開催　（延べ人数　49 人参加）

音楽会、運動会、保育園交流会、とんどさん、奉仕作業、スイーツ作り

（延べ人数　１７人参加）

Ⅲ　サービス目標の評価

１．利用者の主体性に配慮し、「自分らしい生き方・生活」の実現に向けた支援を行なう事で達成感、満足度の向上を目指す

・歌クラブを通して夏祭り、地域交流会、月行事での発表等でご家族や地域の方へ披露出来たことが自信や達成感につながった。又、希望に応じて、畑仕事や近所への散歩、買い物、個々での外食（お寿司・パン屋等）に出かけた。

家族の結婚式や墓参りという希望にはご家族に相談し協力を得、実現した。

２．生活の中にリハビリを取り入れ、心身共にきめ細やかな対応により健康を維持し、自らの健康増進に取り組めるような支援の実施

・日課の体操、手芸、声を出す事（歌・早口言葉）等職員と一緒に出来るものや、生活の中で出来る洗濯たたみ、調理活動、自主的な歩行訓練など生活の一部として継続した。

３．利用者一人ひとりの状態の変化を観察し、主治医と連携を取りながら予防に努める

・かかりつけ医や看護師への相談により早期受診につながるよう心がけた。日々の状態を観察し、いつもと違う点も注意しながら夜間帯への引継ぎを行う等、利用者も高齢になられ、急変されるリスクも高く、日々の健康観察、状態把握が重要になってきた。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．介護の基本的な技術を充実させ、さらに認知症ケアの専門的知識、技術を高め研修等による互いに学ぶ機会を設ける（一人１研修以上の参加）

・喀痰吸引研修（2 名）認知症研修（3 名）口腔ケア・パーキンソン・アセッサー（各１名）等外部研修に参加したが、一人１研修には至っていない。

２．認知症に関わる資格取得（目標：2 名）　（　）‥現取得者総数

・今年度、資格取得に関する研修参加者なし。
認知症介護実践リーダー研修（3 名）、認知症介護実践者研修（4 名）

Ⅴ　地域目標の評価

１．運営推進会議の開催

・定期的（2 ヵ月に１回）に運営推進会議を開催し、利用者の状況や行事、事故、苦情を報告。事故対策や食事摂取等へ頂いた意見を検討しサービス向上に努めた。

２．地域を含めた防災訓練の実施、ボランティアの受け入れや関わりを増やす

・夜間想定避難訓練（11 月 20 日）、災害訓練（11 月 20 日）、地震訓練（2 月 8 日）を実施した。地区消防団との合同避難訓練を予定していたが実施出来ず、次年度へ持ち越した。

・歌、手芸、演芸（山田）草取りのボランティアの方の協力があった。

３．地域のニーズを理解し、地域との関わりをもち、必要とされる事業所を目指す

・定期的に行われる地域交流会の参加者は同じような方の参加ではあったが、楽しみの一つにもなってきた。また、参加される利用者とも顔馴染みになってきた。

Ⅵ　業務目標の評価

１．働きやすい環境整備

・普段から、言い合える関係を築き、働きやすい環境整備を行った。

２．安定的経営を目指す（満床を維持する）

・年間入院日数・・８８日（入居以前からの褥瘡によるもの）・・１名

３．経費 3%削減（節電・節水・物を大切にする）

・節電や節水に努めたが、光熱費等３％削減には至らなかった。